

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	平成28年3月4日（金） 14:00～16:00
場所	沖縄県立図書館 3階研修室
出席委員名	望月道浩会長、豊見山恵美子委員、金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員、上江洲豪、呉屋美奈子委員
議題及び報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 館長あいさつ 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①県立図書館の取り組みについて ②平成27年度の館の運営状況について ③次年度予算の要求状況について 4 各委員からの図書館への質疑・提言 5 閉会
議事の概要	報告事項に対する質疑応答を行った。 委員からの質疑及び提言は議事録のとおり。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	-
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 田中、平 電話 098-834-1218
備考	

平成27年度第2回沖縄県立図書館協議会 議事録

日時 : 平成28年3月4日(金) 14:00-16:00

場所 : 沖縄県立図書館3階 研修室

出席者: 望月道浩会長、豊見山恵美子委員、金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員、
呉屋美奈子委員、上江洲豪委員

傍聴者: なし

・館長挨拶

・議事

<議事内容等>

まず、城間館長が挨拶を行い、その後望月会長の進行により、議事①平成27年度県立図書館の運営状況について、議事②平成28年度県立図書館の予算の概要(案)について、城間館長より説明を行った。質疑応答の後、議事③県立図書館ビジネス支援充実事業の取り組みについて久田主査より説明を行った。議事における発言要旨は以下のとおり。

(事務局より議事①、②について説明)

(委員)

説明を聞き、元気のある充実した県立図書館であると感じた。高齢者支援がとても必要で、踏み込んでいきたいとのことだが、具体的にはどのように考えているか。

(事務局)

高齢者支援に関しては、施設等の問題があり現状では取り組めていないが、当館の利用者を見ると高齢者の割合が高い。高齢者というのは社会との関わりが薄れてくる。図書館に来て会話もなく黙々と本を読むだけである。図書館の社会教育施設としての役割を考えると、コミュニケーションを取れる機会を設けることは大事である。高齢者向けの講演会やお話会、高齢者から子ども向けのお話会を開催する等の活躍する場を提供できるよう、新館に向けての課題として取り組んでいきたい。

(委員)

司書採用を実施したとのこと、予算を確保できたことは評価できる。世の中が大きく変わっていく中で、文化に目が向いており、国立劇場では組踊の良さを伝える為、若い世代が頑張っている。新収蔵資料展のように若い世代が組踊り等の文化について発信している資料を見ることができるのは非常に楽しみであり、県立図書館が果たす役割は大きい。高齢者の知識等を若い世代に繋げていく方法を、図書館ならではの活動の中に取り入れてほしい。現在、市町村立図書館で活発に取り組んでいるところがあるので、県立としても学べるところがあるのではないかと。

(委員)

県立図書館が直接サービス若しくは間接サービスとしての、高齢者支援をきちんと分けし、どのようにサービスを提供するかと言うことを捉えていかないといけない。喫緊では障害者差別解消法が施行される。県立図書館としては準備等を整えているところだと思われるが、その関わりの中での高齢者支援への取り組みについて伺いたい。

(事務局)

平成28年度よりサピエに登録し、システム作りの為の予算を要求しているところではある。元々、館にある大活字本の活用や老眼鏡の設置等、利用者に高齢者が多い中、ある程度の準備は進めているところではある。

(委員)

平成28年度の予算について伺いたい。個別の内訳を見ると、予算が膨らんでいる事業がある反面、ビジネス支援充実事業は減額が目立つようである。今後もこのような方向で進んでいくのだろうか。

(事務局)

ビジネス支援充実事業は一括交付金を使用した3年事業となっている。平成28年度で一旦事業は終了する。今回の減額については平成26・27年度で購入した資料が複数年度使用できるもののため、資料購入の備品に当たる部分が減額になったことと、県外視察や研修の旅費が減となっている。

(委員)

県立図書館が資料を購入する際、どこから購入しているのか。

(事務局)

流れとしては、4月の初めに入札等を行い年度の契約企業としている。郷土資料の古書について収集する必要がある場合は、古書店を通して個別に購入をしている。

(委員)

県立図書館が地域にどのように貢献をしていくかということを考えた場合、県立図書館の予算に占める資料費の額は大きいものと思われる。地産地消ではないが、本の購入等に関して地元の書店から購入したりする等の状況はどうか。

(事務局)

入札に関しては県内の書店や、県内に支店を設置している書店が参加しているが、最終

的には入札の結果で決めている。

(事務局から議事③についての説明)

(委員)

事業内で取り組むサービスについては市町村へのPRや、県民全体に届く様なPRになっているのか。県が行うサービスは県民全体や市町村のバックアップにならなければならない。出張図書館とあったが、県立図書館に行けない方が近くの図書館から県立図書館の本を借りられるようにリクエストカードを設置するとか、地域の図書館の役割、県立図書館の役割をPRできるのではないかと。相談会にしても、那覇市まで来ることのできない方達の相談についてはどのようにお考えか。ビジネス支援サービスを県立図書館が行うことによって、地域の図書館への相乗効果がどうか。展示のネーミングを募集する際にも、近隣の学校だけではなく、県民への呼びかけが必要ではないか。

(事務局)

相談会についての広報としては、レキオや広報誌に掲載している他、各市町村立図書館にチラシの配布依頼をしているところではあるが、中南部からの参加者が多く北部地域の方が参加するには難しいところがある。

サービスを行うことでの近隣施設への相乗効果については、検証をしていない。

(事務局)

ビジネス支援事業は、昨年度から始めた事業であり、県立図書館はモデルケースになる。その点から、県立図書館が全てをバックアップすることはできない。市町村の図書館にはそれぞれの地域に合わせた上で、取り組んでもらいたい。現段階では事業に取り組み始めた段階で検証まで進んでいない。公立図書館協会等で宣伝はしているところではあるが、実施を押しつけることも出来ないため、地域の図書館が連携をして取り組んでもらいたい。

(委員)

平成29年度以降の見通しについて伺いたい。

(事務局)

平成30年度の新館移転を控え、ビジネス支援コーナーの規模拡大を見据え、約30,000冊規模の所蔵となる予定。平成29年度以降、予算が途切れてしまうと目標達成は難しくなる。平成29年度以降は現段階で財源確保等、未定の状況ではあるが、平成28年度前半で今後の形を作っていきたい。

(委員)

一括交付金は単年の成果目標をたてるかと思うが、何を成果目標としているか。

(事務局)

成果目標は、平成27年度につきましては、ビジネスレファレンスの件数と、年間の貸出冊数に成果目標を置いており、具体的には、ビジネスレファレンス件数を30件、年間貸出冊数25,000冊としている。平成28年度はビジネスレファレンス件数を50件、年間貸出冊数35,000冊としている。

(委員)

公表されている、平成26年度に対する成果目標についてはどうか。

(事務局)

平成26年度については、成果目標に貸出冊数が入っておらず、ビジネスレファレンス件数のみとなっているが、目標15件に対し実績15件となっている。このビジネスレファレンスについては、単に資料の提供を行った件に関しては含まず、対応に30分以上の時間を要した件を対象にカウントしている。

(委員)

成果目標の件数等が、実際にどのように影響を及ぼしたか等については、どの数字をどのように検証に使用するのか悩ましい所であると思うが、委員の皆さんで良いアイデアがあるのであれば、この場や後日でも提案頂けると県立図書館のサービスが向上していく手掛かりになると思われる。

(委員)

国頭村は僻地のため、共同売店が現在でも数多く残っている。先日、与那区の共同売店に県立図書館の本を置いたところ、早速子ども達が利用し本を読んでいた。共同売店は高齢者の利用も多いことから、高齢者が本に触れる機会や読書による影響を考えると、今後も村内の共同売店に広げていき、状況を報告したいと考えている。

(事務局)

県立図書館としても共同売店等の活用は非常に有益だと考えている。共同売店等の協力が前提ではあるが、地域住民にサービスの還元をできることから、施策次第では有効な方向へ進むと考えており強化をしていきたい。

(委員)

沖縄県地域児童文庫連絡協議会の事務局の方と話す機会があったが、県内の文庫活動をされている方は高齢の影響からか文庫活動を行えなくなっている現状がある。図書館未設置の地域において、本が足りていない環境では共同売店等への本の設置は求められていくことだと思われるので、継続していただきたい。

(委員)

新県立図書館の開館時間は今後どのように考えているか。他の市町村が実施しているサマータイム制の導入等は考えているか。

(事務局)

新館の開館時間等について、検討委員会にて継続して議論しているところではあるが、公表できる段階ではないため、課題として取り組んでいるということでご理解いただきたい。

(委員)

受け取りポストについては、新館の検討議題にあがっているか。

(事務局)

受け取りポストについても検討をしているところである。予算等の兼ね合いも含め研究をして良い物を取り入れていきたいと考えている。

(委員から館への提言)

(委員)

県立図書館が実施する企画や相談会等について、那覇市民や近隣市町村の方だけが受けるのではなく、北部や離島地域も含め県民全体がサービスを受けられる様に実施方法等を考えていただきたい。

(委員)

今年度は、図書婚というイベントを開催した。参加人数も多く充実した会となった。本を通しての交流ということで、面白い企画だと考えている。

(事務局)

交流の形式等はどのように実施しているのか。

(委員)

全員が会話をすることができるよう、1対1の対話形式をとり全員が話をすることができるようにしている。話す内容についても、好きな本や作家についてとする等、本を通じた交流をお願いしている。一組の交際成立の報告もあった。

(委員)

県立図書館の取り組みについて非常に有意義な話を聞くことができた。次年度に生涯学習振興課の生涯学習推進計画の見直しがあるため、図書館の取り組みや考え等について反映していきたい。

(委員)

図書館の運営や事業を行っていく上で、人材の確保が重要となるので、今年度司書採用を実施したことは素晴らしいことである。次年度に新規で立ち上げた沖縄県立図書館所蔵郷土資料劣化度調査事業について、もう少し内容等を伺いたいのに加え、あと2点、ビジネス支援充実事業の相談会等を開催するにあたって支払い等はどのようにしているのか、共同売店等への貸出本の選別をどう決めているのか伺いたい。

(事務局)

郷土資料劣化度調査事業は、図書館に所蔵されている特殊文庫及び保存用資料のうち、1955年以前に発行された資料13万冊の中から調査対象としている約2万冊について、保存状態等を調査し軽微な物についてはその都度修繕等を行う事業。平成28年度は約9千冊の資料を外部に委託し調査する計画だ。

(事務局)

ビジネス支援充実事業の相談会は、沖縄県中小企業診断士協会と連携し、相談料等はいからず無料で開催・運営を行っている。

(事務局)

共同売店等への貸出は、借りたい側が一括貸出リストの中から選択し貸出をしている。リストには小児向け本や一般向け本がありジャンルで分かれている。

(委員)

共同売店での貸出については、売店のある地区周辺の住民向けにチラシを投函し、開催の告知をしている。近くに書店等がなく、病気や健康に関しての情報を資料から取り入れている状態なので、資料の充実をお願いしたい。

(委員)

図書館が行う企画や事業等の広報を行うにあたり、新聞の広報誌等に掲載しているとのことだが、SNS の利用を考えてみてはどうか。もう 1 点、ビジネス支援充実事業は大学生の就職活動を意識した取り組みを実施したほうが良いように感じている。

以上